

学校だより 令和5年度2月号

NO. 10



のびるほどっ子!

ほっとな未来へ 3C!

令和6年1月31日
横浜市立保土ヶ谷小学校
学校長 宮生 和郎

温かい心が世界をつなぐ

校長 宮生和郎

放課後キッズクラブの入り口階段近くに植えられている紅梅（紅冬至）が満開となりました。近づくと疲れが一気にとれるような梅独特の香りが体を包み込みます。この紅梅は「保土ヶ谷区の子どもたちにとって小中学校時代が輝く時になるように」との願いが込められ、NPO 法人元気な地域人の会より助成を受けて一昨年の11月、創立150周年記念として植樹されたものです。学問の神様として名高い、菅原道真公の神紋を取り入れてデザインされた本校の校章の梅鉢につながっています。ぜひ満開となったこの時に、児童の皆さんに輝いてほしいという地域の皆さんの想いや本校の歴史を感じてほしいと思います。今年度はその助成金を12月の人権週間で講師をお呼びするために活用させていただきました。子どもたちの人権意識が高まり、温かい心が育っていくことを願っています。



ウクライナの子どもたちに届いた平和への願い



昨年の11月27日に3～6年生の児童の皆さんが「ウクライナの子どもたちに元気になってほしい」と願いを込めて色付をした鯉のぼりやメッセージが1月半ばにウクライナのフメルニツキ市立小学校に届きました。その小学校はキーウ（ウクライナの首都）近くに位置し、比較的被害が少ない学校とのことです。児童数は695名で保土ヶ谷小学校の2倍ちょっと超える人数だそうです。その学校ではもともと日本の文化について学ぶ機会があるようで、応援メッセージや鯉のぼりが届くと「より日本の文化に興味を持てた。

茶道をやってみたい。」と前向きな発言する子も見られたとのことです。本校では朝会でメッセージが伝わったことを紹介するとともに、3～6年生の各クラスではウクライナの小学校からいただいたすべての写真を見せながら現地の様子を伝える時間をもちました。改めて安心して家庭や学校、様々な場所で学ぶことができることの大切さを感じるとともに、遠く離れていても互いを思いやる温かい心でつながっているということを感じ取ることができました。

「野球やろうぜ！」大谷選手からのグローブ届く

1月29日に大リーガーの大谷翔平選手からグローブが届きました。大谷選手の願いは「多くの子どもたちに野球の楽しさを知ってもらいたい」ということです。その願いをかなえるために希望する児童にはぜひ使ってほしいですし、野球を知らない子どもにもグローブを見て触ってほしいと思っています。翌日、全クラスでグローブを紹介する機会をもちました。目の前にあるグローブを見ている子どもたちの表情を見て、遠くにいる大谷選手の想いが今届いたんだなと感じました。

